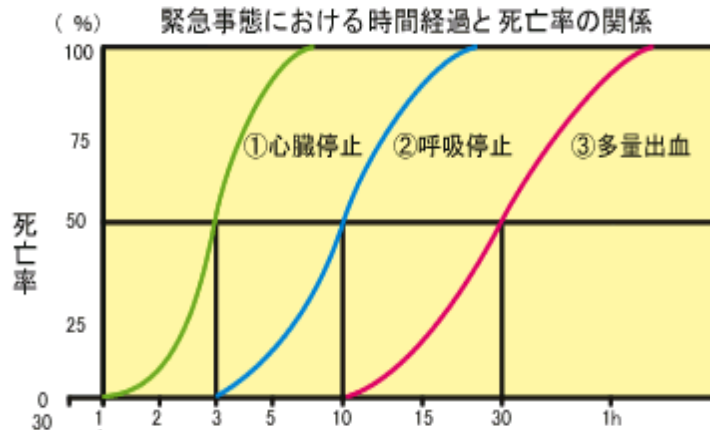


☆救急救命措置を知ってマスク？

◎カーラーの救命曲線



上のグラフは、フランスの救急専門医M. Carraが1981年に報告した「緊急事態における時間経過と死亡率の関係」で、現在日本で行われている応急手当講習会の理論的根拠となっています。この図によれば

- ① **心臓停止後約3分で50%が死亡**（10分後では、約100%が死亡）
- ② **呼吸停止後約10分で50%が死亡**（20分後では、約100%が死亡）
- ③ **多量出血では約30分後にショックにより50%が死亡**（1時間後では、約100%が死亡）

作業所内で心臓病・脳疾患等の病気や事故により心肺停止や多量出血した場合、上記のように速やかな措置をしないと命にかかわる事態となります。救急車の到着時間は、電話をしてから都市部では平均6分間と言われており、最寄りの消防署の救急車が他に出勤していた場合や山間部の現場の場合、さらに時間がかかることとなります。従って、救急車が到着するまでの救急救命措置が極めて重要なのです。

現場内や近隣地域で発生した緊急を要する傷病者を救命するためには、近くにいる人に助けを求めるとともに

- ① 現場に居合わせた人が発生場所と状況(意識の有無や心肺停止か多量出血か等)を速やかに119番通報する
- ② 現場に居合わせた人が速やかに応急手当を行う(人工呼吸や心臓マッサージ、AED使用、止血等)
- ③ 救急隊員による高度な応急措置と、傷病に応じた医療機関への搬送、及び専門医療機関での適切な治療

上記②の応急手当講習については下記のように各地の消防署(東京都の場合は東京救急協会)や日本赤十字社の各支部で開催されており、作業所でも1名程度は最寄りの消防署で普通救命講習を受講されてはいかがでしょうか。

(参考までに、当社のMRT(Maeda Rescue Team)隊員は、日赤の連続講習(3日間)を受講しています)

- a) 普通救命講習(消防署)または基礎講習(日赤) 所要時間 3~5時間 費用は1,500円程度
- b) 上級救命講習(消防署) 所要時間 8時間(1日) 費用 2,600円程度
- c) 連続講習(日赤) 所要時間 21時間(3日間) 費用 3,000円程度

所長メモ: